

## 日本人が中国人を理解できない理由 2月7日

2016年は中国経済の崩壊が更に進行し、2017年には中国内政の激変の可能性もあります。中国の経済・内政・軍事の変化から、私達日本人も様々な大きな影響を受けてゆくはずですが。

中国人の考え方や言行は、日本人には理解できないことが多すぎるようですが、中国や中国人を理解するうえで、大いに参考になるとと思われる本をご紹介します。私も、さっと目を通した程度で、じっくりとは読んでいませんが、ここでは本と著者をご紹介します。これらの本の内容に対する詳細な感想や意見は、後日にまとめてゆきたいと思っています。また、youtubulには著者の方々の映像や証言が数多く存在していますので、ご参考にしてください。

### 宮崎正弘



宮崎 正弘(みやざきまさひろ、[1946年](#) - )は、[日本の評論家、作家、ジャーナリスト](#)。拓殖大学日本文化研究所客員教授。[石川県金沢市](#)出身。「南シナ海問題を考える会」代表<sup>[1]</sup>。

世界を股にかけ、現地取材を信条とする行動するジャーナリスト(評論家、作家、経済通)多くの識者の方から、中国情勢通の第一人者と高く評価されておられるようです。抜群の取材力と記憶力と分析力からの講演内容は秀逸で、数多くの講演活動をされておられます。youtubu 『知られざる「中国」の実態 恥知らずな「ならずもの国家」を読み解く』 『宮崎正弘 基調講演 中国崩壊の始まりか』 『宮崎正弘「憎しみの千年戦争が始まった」』

### FRANCE10 日仏共同テレビ局

評論家の宮崎正弘氏が警告！中国崩壊のカウントダウンが始まった。2016.1.20

世界を駆け回り、独自の情報網を持つ評論家の宮崎正弘氏が1月20日に都内・「正論を聞く集い」にて講演した。以下、宮崎氏講演のダイジェスト版。

「独裁国家は権力闘争はつきものだが、いまの中国の権力闘争はイデオロギー対立・人脈対立が全然ない。金と女をめぐる争いだ。習近平がこの三年でやったのは、他の派閥の利権を全部召し上げる闘いだ。周永康は石油派のボスといわれた。検事・警察・裁判所の最終決定権は習近平が握っている。石油利権をみんな漁って、上納システムを作って、本人は1兆4000億円ぐらいはため込んでいただろう.....といわれている。中国は上に献金する。日本で言えば暴力団のシステムで、子分からどんどん上がって行って山口組のボスに上納される。たとえば、副市長が市長になる、将軍になるにはその地位に見合った相場がある。中將が大將になるには相場のお金を支払わなければならない。軍隊は最も腐敗しているところで、武器庫をあけたらカラだったとか、戦闘機が基地にあるはずなのにスクラップされて業者に売られていたとか...ということがある。軍事物資が入ってきたら、半分は部隊長が横流しにする。訓練用に入ってくるガソリンも横流ししてしまう。

②

石油利権の話だが、周永康は江沢民派だがみな失脚した。鉄道利権を握っていた劉志軍も肅正した。彼が貯め込んだお金は1兆2000億円といわれている。新幹線の一つ創るのに当時6兆かかるといわれ、いまはプラス6兆円であちこち創った。中国の賄賂の相場は20%に決まっている。業者は手抜きをする。鉄工を十本いれるところを一本にするとか。だから、ビルや橋は崩れ落ちる。橋桁が落ちたことがあったが、鉄骨が入っていると思ったら、生ゴミが入っていた。

次ぎに狙ったのが石炭利権。中国の発電の72%が石炭をくべた火力発電だ。石炭利権を牛耳っていたのが、胡錦濤の秘書役だった令計画だ。彼もとっつかまった。

水力発電を握っていたのが、李鵬・元首相の娘・李小琳。令計画の末弟が令完成だ。

2700の秘密ファイルを以てアメリカに逃げた。中国はこれがバレたら大変だと100人の暗殺団を送り込んだ。米国の知るところとなって、FBIに保護されている。この秘密は米国に伝わっているということだ。

次ぎに通信に手をつけた。これを牛耳っていたのが江沢民の息子・江綿恒だ。これも失脚した。

大物だけで460人、失脚した。公務員の末端に至ると、13万人が失脚・更迭・左遷。血を流さない文革だ。この結果、行政の人たちが判子を押せなくなった。判子を押せば賄賂を受け取ったと思われるからだ。

ポストは相場がある。みんな3年前に買ったポストなのに、この3年間、一銭も入らない。

来年10月、党大会がある。あと、1年半で元をとらないといけませんが、反腐敗などといって、綱紀肅正の憂き目に遭っていて、みんな不満たらたら。

習近平は完全に権力を掌握したという報道もあるが、まだ危ない橋を渡っている。」

## 櫻井よしこ



[1945年\(昭和20年\)10月26日](#) - )は、[日本のジャーナリスト、ニュースキャスター](#)。[国家基本問題研究所理事長](#)。[新潟県立長岡高等学校卒業](#)<sup>[2]</sup>。[ハワイ大学マノア校歴史学部を卒業](#)<sup>[要出典]</sup>。英字新聞『[クリスチャン・サイエンス・モニター](#)』東京支局などを経て、[1980年](#))5月から[1996年](#)3月まで日本テレビ『[NNNきょうの出来事](#)』の[メインキャスター](#)を務めた。

知名度、人気、見識、ともに高いジャーナリストです。彼女が主催する言論テレビ「君の一步が朝を変える」では、昨年9月11日には安倍首相が生出演していました。

## zakzak by 夕刊フジ

櫻井よしこ氏「国際秩序の主導権を中国が奪取すれば世界にとってマイナス」 東シナ海・南シナ海フォーラム 2015.11.13

中国の南シナ海をはじめとする領土的野心について考える「東シナ海・南シナ海フォーラム」が11日、東京・池袋の豊島公会堂で開かれた。

ジャーナリストの櫻井よしこ氏による基調講演のほか、評論家の宮崎正弘氏、東海大学教授の山田吉彦氏、静岡県立大学特任教授の小川和久氏が加わってのシンポジウムが行われ会場に集まった約800人が聞き入った。櫻井氏は基調講演の冒頭、「いま南シナ海で起きていることは東シナ海でも必ず起きる」と述べ、南シナ海の岩礁を勝手に埋め立てて軍事基地化するなど覇権拡大を狙う中国の動きについて「世界秩序の構築を主導してきた米国に中国が取って代わろうとしている」と警鐘を鳴らした。

また、主導権が中国に移った場合は「世界にマイナスの変化をもたらす。日本にとって繁栄にも平和にも結びつかない」と話した。

南シナ海では、中国が人工島建設や油田開発を進める一方で、米国も人工島の12カイリ内にイージス艦を航行させるなど緊張が高まっている。

この米中の関係について櫻井氏は「米国と中国のせめぎ合いは非常に奇妙な光景。お互いに距離を測りながら相手を瀬踏みしており、表向きは対立しているが、協力関係という枠の中にある。この関係を読み解くことが重要だ」と分析した。

そして一連の中国の動きについて、「一番の責任はオバマ米大統領にある」と指摘。2013年9月に「シリア内戦に関するテレビ演説で、オバマ大統領が『米国は世界の警察ではない』と演説したことが、その後の中国の動きを奨励するような結果になってしまった」と批判した。

その上で「世界の国々は中国の蛮行をちゃんと知っている。米国が消極的になっているのなら、日本がリーダーシップを取るべきだと思う」と主張。米国やベトナムなどのTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)参加国との連携、安保関連法制、そして憲法改正が重要だとして、「日本はアジアの大国として声を上げて、全力で働かなければならない。それが南シナ海沿岸国の幸福にもなり、ひいてはわが国のためにもなる」と強く訴えた。

## 北村 稔



北村 稔(きたむらみのる、[1948年](#) - )は、[日本の歴史学者](#)。立命館大学文学部教授、日本「南京」学会会員、[国家基本問題研究所](#) 客員研究員。

[中国近現代史](#)専攻。法学博士。  
[京都府](#)出身。[京都大学](#)文学部史学科(現代史専攻)卒業。  
京都大学大学院博士課程中途退学。  
[三重大学](#)助教授を経て現職。

多くの歴史的事実を基に執筆される内容は、非常に信憑性が高いものです。日中戦争や1980年代の文化大革命の実情は知っておくべき事項だと思っていますので、この本はじっくり読んでゆきたと思っています。

反日はどこからくるの 反日を追っています。そして守るべき日本とは何か考えています。

カネと宣伝で幻惑する中国。進歩のない日本。

(´・ω・`)長いので外国特派員協会に関するところを抜粋

カネと宣伝で中国に幻惑される米国

『歴史通』2014年5月号

ヘンリー・S・ストークス(元『ニューヨーク・タイムズ』東京支局長)

加瀬英明(評論家)

北村稔(立命館大学教授)

加瀬 中国に幻惑されているのだと思います。支那事変のころ、(蔣:筆者)介石政権はアメリカ議会、研究所、マスコミを金漬けにしました。それと同じことを今の北京政権が行なっている。

ワシントンポスト紙には毎日チャイナ・デイリーの英語版が折り込まれているのです。

## 英語メディアの重要性

北村 そう、英語のメディアって大切ですよ。中国人がやっているように、お金を使って英語で世界に自国の主張を広げるといことは、情報戦の基礎ですよ。

日本人はあいかわらず情報戦への認識がない。「謀略」を嫌がりますし、「無謀」という言葉もある。日本人のスタンスは謀略と無謀の間だと思うのです。「謀略をやると相手を騙しているようで悪いし、無謀って言うとバカだ」と(笑)。

北村 蔣介石の国民党からすると、アメリカが出てくると日本に勝てるわけですから、真珠湾攻撃の日の彼の日記には、「神は助け給うた」と書かれていますよ。アメリカに参戦してほしいので、蔣介石は色々な謀略をします。国際宣伝処をつくって、「日本軍は残虐で中国人は一所懸命抵抗している」ということを、英語メディアに訴える。外国人記者を抱え込んで、ネットワークを作るんですね。

## 今もいきる「記者協定」

加瀬 日本は日中記者協定で「中華人民共和国を批判するような報道はしません」と取り決め今でも有効なんです。

ストークス 日本の新聞・テレビは、言論の自由を自ら否定している。それでいながら、民主主義という言葉をかんに振り回す。その言葉を使う資格があるのか、と言いたい。

北村 だから、中国で暴動が起こっても、映像を他の通信社から買って流しているんじゃないですか。

以前、日本の新聞社の北京支局に行ったら、雇っている現地の中国人スタッフに話を聴かれてしまうから、「外で話そう」と連れ出されました。

そのときの話では、中国人スタッフを雇わなければならないのだ、とのことでした。

中国の情報網が緻密に張り巡らされて、日本は頭から抑え込まれている状態なんです。

中国人は長い歴史の中で、外交でいかにお金を使って相手を取り込むかということに長けています。

かつてアイリス・チャンの『レイプ・オブ・ナンキン』の売れ行きがすごいと騒がれましたが、あれは在米華僑が買い占めたのです。アメリカ人の編集者たちの間ではそう言われていました。

お金を使って操作し、事態を盛り上げていくのは昔も今も得意です。

共産党も国民党も、同じ知恵を持っているんでしょうね。

「アメリカ人が幻惑されているのではないか」との話がありましたが、まさにその通り。

中国人のパフォーマンスは決して弱気になることはありません。深刻に考えたりせず、強気で押してきます。

ビジネスでも何でもそうです。

日本人は「おとなしくて誠実にしていれば正義は理解される」と思っていますが、そんなの相手にわかるはずがありません。中国人は思い切りお金を使って自分に有利なようにする。

うそを言うことに対しての恥の概念がまったくありませんし、政治のレベルから個人のレベルまで徹底しています。これでは日本人はかないませんよ。

## 中国人を好む米国人

加瀬 以前、日本政府の対米折衝をお手伝いしたときに、キッシンジャーが国務長官でした。

お酒の席で「なぜアメリカ人は日本人より中国人を好むのか」と聞いたことがあります。

すると、「中国人は論理的で話がわかりやすいけれども、日本人は何を考えているのかさっぱりわからないから苦手だ」と言われました。ストークスさんも最近のご著書の中で「西洋人はディベートの社会であり、中国人も同じくディベートの社会だ」とおっしゃっていますよね。

論理的で「正しい、間違っている」の判断がはっきりしています。

北村 中国人は、論理的でなくても、自分に有利なように見せかけることが得意なんです。理屈を言ってダメだったら、また別の理屈を持ってきて、理屈を積み重ねていきます。そこに「恥ずかしい」という概念はありません。

加瀬 アメリカ人も多分にそうですね。

ストークス 日本人は和を大切にしているので、私が正しい、おまえは完全に間違っているといって、相手をやり込めることをしません。リクツ(理屈)といって、嫌われます。白と黒をハッキリさせずに、相手の顔も立てようとするんですね。ところが、日本の外では和の心は通用しません。日本人のよい面が、外国では裏目に出る。

北村 個人的な話で恐縮ですが、私は外国に行くとダブルスタンダードで行動します。問題が起こったら常に権利を主張するようにしています。自ら引いてしまうと、やられる一方だから。

加瀬 ストークスさんは日本外国特派員協会(=FCCJ)の最古参ですよ。

ストークス ロサンゼルス・タイムズのサム・ジェームソン氏が私よりも少し前に来日しましたが、サムが他界したので、私が最古参です。

加瀬 僕も協会の古いメンバーで、実はストークスさんよりも古参なのですが、協会所属記者のほとんどが反日ですね。たとえば、ニューヨーク・タイムズの特派員でニコラス・クリストフ記者はとにかく日本を憎んでいるとしか思えなかった。

(→[人食い日本兵の元ネタ、かも](#))

ストークス 彼には中国生まれの中国人の奥さんがいますから、その影響もあるかもしれません。

加瀬 あるとき、クリストフ記者が僕に取材をしにやってきたのです。僕は昔からニューヨーク・タイムズに署名原稿を書いていて、ニューヨーク・タイムズの持ち主だったイフジン・サルツバーガー夫人と個人的に親しくしていたので、手紙を何通か持っていたのです。

それを見せたら突然態度が変わって椅子から床に落ちそうでしたよ(笑)。インタビュー記事を見たら、僕のことを褒めているんです。

北村 アハハハハ(笑)。

### 日本嫌いの記者ばかり

加瀬 クリストフ記者をはじめ、協会にいる欧米の記者は、なぜ日本嫌いが多いのでしょうか。昨年末12月26日、安倍首相が靖國神社に参拝したことに関しても、また、慰安婦のことに関しても、日本を非難する記事ばかりでしょう。

ストークス 外国特派員協会は、占領下に創立されたころから反日です。42年前に来日した時、協会があまりにも“アメリカ的”なので、私はアメリカ人記者とは少し距離を置いた見かたをしていました。クラブのバーで年配のアメリカ人記者たちがサイコロをふったり、賭け事にふけていました。西部劇のような空気でしたね。日本人に対しても、「クサイ」といって侮る態度をとったり、ハナから反日的でした。そういう戦勝気分ひたった記者たちがいなくなってきたので、だいぶ変わってきましたが、反日的空気は多分に残っています。

(→[世界に「反日の毒」をまき散らす 外国特派員協会](#))

それに、先の戦争で日本人によって白人の天下が壊されてしまったという怨念が心の底のどこかにありますね。

このところ、一番の問題は、フィナンシャル・タイムズやウォール・ストリート・ジャーナルに駐日特派員が記事を書いてもめったに掲載してくれません。

たとえばニューヨーク・タイムズでは一面トップは中国に関する記事が掲載されます。

中国は巨額の資金を動かしているわけですが、それに比べると、日本がアメリカなど海外で使うお金はまるで目薬の一滴のごときものです。

**加瀬** アメリカ人から見ると、中国はいまだに非常にロマンチックな国で、日本はそうではないようですね。親しいアメリカ人などと話すと、日本人が「日本がまたアメリカよりもいいものをつくった」といって不快感を買うのに、中国人相手だとよいものを創る力がないためか、そんな感情は起こらないようです。中国に対しては親しみがあるんですね。

**ストークス** ウォール・ストリート・ジャーナルなども「世界の工場・中国」と記事を発信していますが、友人たちも誰もが口をそろえて「中国は世界の工場だ」と言います。何といっても中国が動かしているお金は、目がクラクラしてしまうほど莫大なのです。

### 中国人と西洋人は似ている

**加瀬** ストークスさん、最後にお訪ねしたいのですが、「日本」を世界にわからせるためには、何をしたらいいでしょうか。たとえば、日本外国特派員協会を閉鎖して追放するとか(笑)。(これに賛同する日本人が大半だろうな。)

**ストークス** このところ、日本食からアニメ、デザイン、ファッションなど日本が西洋に及ぼしてきた文化的な影響は、大きなものがあります。そこへゆくと、中国が近代に入って西洋に及ぼした影響は、何一つありませんね。

政府が海外で「クール・ジャパン」のキャンペーンに力を入れているのも結構ですが、日本人の精神性、歴史についての知識をひろめることに努力するべきですよ。

**加瀬** 中国人も西洋人も自己中心的で、そういう意味ではすごく似ているので相性がよいのでしょう。西洋人が中国に幻惑されているのは、「お化けを見て騒いでいる」ようなものですよ。

**北村** 中国に対するロマンが、昔からヨーロッパにあるのでしょうか。

**加瀬** 世界をキリスト教化するのが当時の夢なのです。しかし、日本は嫌われる。特に宣教師の子供たちが日本に対して恨み骨髄に徹するほど日本を嫌っています。両親が一所懸命日本人を改宗させようとするのに、その努力はまったく結ばれないから「日本はなんて嫌なところだ」となってしまう。

ところが、中国人はすぐにコロっと改宗してしまうのです。

**北村** 現世利益でしょう。西洋とつながることができて、優先的に商売できますからね。日本人は多神教というか多元的価値を容認しますから、一神教であるキリスト教の布教は相当に困難でしょうね。

現実の中国と向き合い、どのように日本の行く末を見定めるのか、まさしく今が選択の時だと思います。

**ストークス** 日本文化の特徴は、はかなさと物慾がないことですね。去年は伊勢神宮の遷宮式が日本中で大きな話題を呼びましたが、ひと口でいえば、簡潔さですね。昔、私の叔父が駐日大使をつとめていましたが、天皇の宮殿にまったく金銀が使われていないことに、驚いていました。中国の故宮や、西洋の宮殿はどこを見ても目にも眩い財宝がこれでもかこれでもかとあります。西洋も中国も物慾が強いという共通点があります。日本は理解し難いんですね。



宮脇 淳子(みやわきじゅんこ、1952年-)は、日本の歴史学者。東京外国語大学で非常勤講師を務める。専門は東洋史(中央アジア)。和歌山県出身。本名は「岡田淳子」。東京外国語大学名誉教授で東洋史学者の岡田英弘は夫である。日本文化チャンネル桜にたびたび出演し東洋史に関する解説をしている<sup>[1]</sup>。

専門の東洋史の観点を持ち、現実の中国の多様性を理解した解説は目からうろこの連続です。中国に中国批判を抑圧されているNHKや朝日新聞などのアスメディアの報道や日本の戦後教育の歪みから私達が植え付けられている中国史観は打ち砕かれることでしょう。

**ACTION**なう 希望あふれる日本へ

わたしたちの小さな気付きや生活にかかわる問題を共に考えるメディア

宮脇淳子講師「これであなたもやっと中国のことがわかる」。

あなたは中国人がどうしてあんなことを言うのか分かっていますか？

メディアでは教えてくれない！宮脇淳子先生が「正しい中国・中国人の見方のポイント」をあなたに動画で解説します！

島国の日本は、外国人の考え方を理解するのが不得意です。

その中でも、特に隣国、中国・中国人を一番理解できていないのではないのでしょうか？

日本では謙譲の美德でも、一歩引けば一歩踏み出すのが中国人のマインドです。

「中国人ってそう考えるんだ！」と思わず納得してしまう宮脇淳子先生の講義動画を公開します。

中国・中国人のことを知りたいあなたには必見の動画です。

**隣国中国のことを日本人は知らない！知らされていない？**ことが宮脇淳子先生の講演が教えてくれます。

今や中国は世界第2位の経済大国です。

そして、今後日本が、経済・政治の面で対峙していくことが避けられない隣国です。

しかし日本人の中国・中国人に対するイメージは、間違っていたり著しく現実と違ったりしています。

マスコミの意識的な誘導もあるのですが・

日本人は未だに、ちょんまげを結って、ハラキリをする。

女の人はみんな芸者だ！といったレベルと同じようなものです。

戦後敗戦国として隣国に接することが求められ、そのため行き過ぎた正しくない歴史観がこんなところにも反映しています。

## 漢字は中国から伝承したが・・

漢字は中国発祥の文字なので確かに正解です。

しかし、**現在中国で使われている主要な1400語の漢字熟語は日本製で中国に逆輸入されました。**

## 中国人といまでも漢字なら意思疎通が可能、でも……

漢字本来の表意文字として使っているのは日本。中国の漢字は今では表音文字に過ぎません。

中国では、表意文字であった漢字を、簡体字(普及のための簡略化)によって表音文字にしてしまったのです。

日本人としては、本来せつかく意味があるのに……と思うのですが……。

例えば、日本語の「愛」は簡体字では「爱」。愛から心を取ったものになります。

## 中国4000年歴史って本当??

中国は建国100年程度の国です。中国という国は歴史的継続性はほぼありません。などなど

詳細は動画で紹介されていますが、ここでは宮脇淳子先生の動画のなるほどポイントをいくつかを詳しくご紹介します。

### 宮脇淳子先生講義動画なるほどポイント1

**:現在使われている漢字熟語の多くは日本製って……**

宮脇淳子先生いわく、「経営」「哲学」「芸術」「改革」「解放」「銀行」「金融」「組合」……。

数え上げればきりがありませんが、今中国でも使われているこれらの漢字の熟語は日本製です。

欧州に追いつこうを勉強した日本の学者たちは、様々な概念を指す言葉が無いので、欧米の語彙を元に漢字を組み合わせて言葉を作ったのです。

また、日本語をそのまま使ったもの(出口や入口など)、古代漢語からとった和声語などもあります。

**新しい概念を表すこれらの言葉を、中国からの留学生が日本で学んで持ち帰ったのです。**

**実際、検証のために昔の中国の辞書にはこれらの言葉は載っていないそうです。**

ちなみに隣国の正式名称「中華人民共和国」ですが、「中華」以外の「人民」「共和国」は日本製だそうです。

### 宮脇淳子先生講義動画なるほどポイント2

**:中国の歴史に連続性はない**

昔のラーメンのCMにもあった「中国4000年の歴史」。

対外的には5000年と言われているようです。

歴史は、継続性があるからこそ歴史の意味があります。

例えば、アメリカは1776年の独立記念日をもって建国して、アメリカの歴史が始まります。

アメリカインディアンをアメリカの歴史とはあまり言われていません。

インディアンから土地を奪い取っているという事情もありますが……。

では中国「中華人民共和国」はどうでしょう?

共産党が中華人民共和国を設立したのは1949年で、実は建国間もない国です。

数千年、多くの民族が現在の中国のいろいろな場所で、様々な王朝を築いては滅びることが繰り返されてきました。

しかし、中国の王朝は、前の王朝を否定して新しい王朝を築くので民族も文化的な継承もあまりありません。

また中国を支配している民族も変化しています。

今は漢民族ですが、モンゴル人に支配されていた時代もあります。

その後は、イギリスの植民地でした。

また、日本がポツダム宣言を受け入れた際は、中国は国民党政府(現台湾)下にあり、その後中国国内の内戦で共産党が勝利して1949年10月1日設立されているので、ここにも連続性があるとは言い難い状況です。

また例え、異なる民族を超えて中国的な文化が継承されてきたとしても、1966年文化大革命により、

旧文化・旧思想は完全破棄されてしまいました。

それを先導した毛沢東の流れをくむ共産党が現在の中国を動かしているの、文化的な継承も期待できません。

ではなぜ5000年と言っているのか？

それは日本が神武天皇即位2600年(神武天皇即位が紀元前660年)の倍だからと・・・。

動画はこちらから▽

### 宮脇淳子先生講義動画なるほどポイント3

：相手に弱みを見せないために自分から仕掛ける中国人のメンタリティ

自分の血縁しか信じない

実際に付き合ってみると、**中国人は、自分の血縁しか信じない国民性があります。**

一族で植民地に移り住み、敵に周りを囲まれ生き抜いてきた経緯があるから当然かもしれません。

確かに、どこの国に行ってもチナタウンや中華街があって、みんなそこに集まって住んでいます。

このためコミュニティが異なれば敵も同然で、実際国家という概念は強く無いようです。

中国高官が巨額の不正蓄財をしつつ自分の家族はカナダやオーストラリアの市民権をとって移住という例が多いのもこの現れでしょう。

唯一、いま国家観があるとすれば「反日」なのかもしれません。

### 弱みを見せず、相手につけ込まれる前につけこむ

メンツを重んじて、相手に傷つけられるのをひどく恐れ、相手に付け込まれる前に、相手の弱みに付け込むのが、中国の対人関係の基本です。

相手に言質を取られることを嫌い、間接的に敵を攻撃する「指桑罵槐(シソウバカイ)」の特性があります。

自分が付け込まれる前に、なんでも良いので相手の弱みにつけこむ。

相手が困りさえすれば間接的で関係のないことでもよいというものです。

日本人は謙譲の美德で一歩引くことを良しとしますが、相手が中国人ならば一歩前に出られてしまうだけです。

### 特定宗教も、儒教のような思想も認められないので・・・

文化大革命により儒教思想は破壊されているので、お金以外の共有の信仰はないようです。

当然共産主義なので金儲け一本というのもおかしいですが・・・。

役人のわいろがニュースで取り上げられ、それを正すことが党の目標となっている現実が、この状況をよく表しています。

その結果格差は非常に大きく、都市に住む少数の人が農村にすむ大多数の人から、1%程度の共産党と政府関係者が富のほとんどを持っている国でもあります。

### アジア競争時代に突入。宮脇淳子先生による中国の歴史を知るべき。

中国に関する文献はあまた書籍等で出版されています。

しかしそれば史実・現在のあり様について伝えているもので、彼らのメンタリティや考え方についてはありません。

身近に中国の人に接している人でも、そのどうしてそのように考えるかの説明をできる人はそう多くはいません。

また戦後日本の多くのインテリ(学識者)は左寄りであったことや日本が敗戦国であったこともあり、

比較的中国の言い分に沿う形で歴史をとらえ教えてきた経緯もあります。

中国研究の大家の、宮脇先生だからこそ、中国の歴史を交えて、中国人を理解するための方法を教えてください。まずは、動画をご覧ください。

今まであなたが不思議に感じていた、中国や中国人の対応、この動画を見れば理解することができます。

### YouTube「歴史から学ぶ中国・尖閣問題」

宮脇淳子先生が、日本と中国の真実の近代史を分かり易く明解に解説しておられます。

良心の呵責なく歴史をねつ造する中国。

中国の巧妙な恫喝に屈しているマスメディアや多くの経済人。

ほとんどの日本人が知らされていない、真実の歴史の一端が明らかになります。





第2回前編 河添恵子の警告！中国の実情【神谷宗幣が訊く！】



中国に留学した経験を買われ、日本企業の中国進出の際の通訳をしているうちに、中国要人の欺瞞性に気づき、日本企業の中国進出に警鐘を発するが、日本の経営者からは煙たがられてしまう。

94年から作家、講演活動を開始。

常にエネルギーに世界をめぐり、女性の鋭い感性で、経済・民族・教育に関する執筆・講演活動を続けている。youtubuにも、多くの講演活動が掲載されています。

## 世界はこれほど日本が好き—No. 1 親日国・ポーランドが教えてくれた「美しい日本人」

著者紹介 河添恵子[カワソエケイコ]

ノンフィクション作家。1963年千葉県生まれ。名古屋市立女子短期大学卒業後、86年より北京外国語学院、87年より遼寧師範大学(大連)へ留学。94年に作家活動をスタート。40カ国以上を取材し、学校教育、世界が日本をどう見ているか、世界各国と中国の関係、移民問題などをテーマに精力的に情報発信をしている。2010年に上梓した『中国人の世界乗っ取り計画』(産経新聞出版)はネット書店Amazon“中国”“社会学概論”の2部門で半年以上、1位を記録するベストセラーに  
(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

### 内容説明

日本の真実の歴史を記録・記憶している人たち。台湾、トルコ、ブータン、パラオ...名だたる国を抑えて“知日国”No. 1に輝いたのは、中欧のあの国だった！

亡国の民が信頼し、尊敬し、共鳴する、日本人が知らない日本の姿とは？  
真面目、責任感、誠実...親日国・ポーランドを通して見えてくる真実の日本。

### 目次

序章 台湾、ブータン、トルコ、そしてポーランド

第1章 日本との連帯—東日本大震災の被災者に寄り添うポーランド国民

第2章 段ボール箱から始まった若者たちの交流—日本人の素晴らしさは「思いやり」「礼儀正しさ」「美しさ」

第3章 ポーランドと初めて公式に接触した日本人—欧米で話題となった単騎馬遠征

第4章 日露戦争で急速に近づいた日ポの距離—“共通の敵”となったロシア

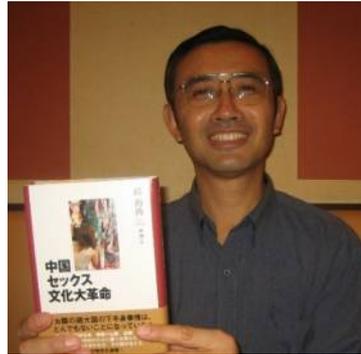
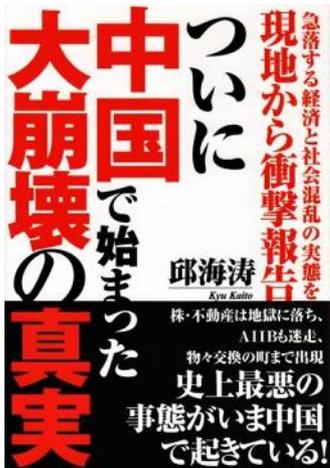
第5章 ポーランド再生の想いに“点火”した日本—シベリアの孤児たちを救え！

第6章 第二次世界大戦中の信頼関係—杉原千畝はなぜビザを発給し続けたのか

第7章 元シベリア孤児と元ユダヤ人難民の戦後—「日本は天国のようなところでした」

第8章 「美しい精神が日本には本当に存在するのです」—アンジェイ・ワイダ監督の悲願だった日本館“マンガ”

## 邱海涛



## 邱海涛

(きゅう・かいとう)

1955年中国上海生まれ。上海外国語大学日本語科卒業。1985年来日し、慶應義塾大学および東京外国語大学で学んだ後、日本企業で十年間勤務する。現在、中国と日本の間で出版や映像プロデューサーとして幅広く活動中。「中国五千年性の文化史」(徳間文庫)、「ここがダメだよ中国人」(徳間書店)、「中国セックス文化大革命」(新潮社)、「チャイニーズ・レポート」(宝島社)など著書多数。

上海に住む筆者が、中国官僚の醜聞や腐敗を赤裸々に語っています。現地人から見た、中国要人の内情の実態には唖然とさせられます。中国人の血縁(宗族文化)による結束も中国人を理解するうえで重要な要素です。

今回は、以上の書籍の紹介をさせていただきましたが、中国は儒教の陽明学の発祥の地でありながら、なぜ、日本人と中国人の感性や考え方に大きな開きがあるのかを以上の書籍は推察する手掛かりを与えてくれるのではないのでしょうか。中国と日本の宗教史については、強い関心をもっていますので、いずれは探究してみたいと思っています。

### 陽明学とは

現在のアメリカや日本で信奉者が増えつつあるニューエイジ思想。

ニューエイジ思想はアメリカで多様に広まって、マーフィー、セス、オリン、パーソロミュー、エマヌエル、ニール、エイブラハム、ロンダ・バーンなど、多様な本の邦訳も出版されています。

ニューエイジ思想に類似する思想、陽明学は、明代の中国の王陽明によって広まりました。

中国ではすたれていきましたが、江戸時代に日本に伝わり、明治維新の志士達にも影響を与え、明治・大正・昭和の政治家や実業家にも少なからぬ影響を与えていった、実践的哲学とも言えるようです。西郷隆盛も陽明学の信奉者であったようです。

日本での儒教の朱子学は上下の礼節を重視しましたが、儒教の陽明学は、個人の良知を重視しました。身分に関係なく、善人悪人を問わず、全ての人には良知がそなわっていると説いたのです。

自己の良知(良心、仏性、高次の自我)に従い、知行合一の生き方を目指すことを説いています。

伝習録は王陽明の言行録です。

なぜ日本で陽明学が開花し、中国で陽明学がすたれていったのでしょうか。

現在の中国で根強く信奉されているのは道教の気学や房中術などのようです。

毛沢東も晩年に複数の女性との房中術にのめりこんでいたと、アメリカ人の歯科医師が回顧録で明かしていました。多くの中国人が道教の超人、仙人、不老長寿などの超人や現世利益を望んだのは、精神的、仏教的、禪的、儒教的な生き方を選ぶには、あまりにも悲惨な殺戮の時代が多かったためでしょうか。

チベット仏教や新疆ウイグル自治区イスラム教やキリスト教徒を弾圧する中国共産党は、孔子の儒教の教えを広めることを唱えだしましたが、孔子の教えの神髄が仁(思いやり)であることを理解しているのでしょうか。

それとも、過去の皇帝が身分の秩序を守るために、儒教を利用したことと同じ思惑がこめられているのでしょうか。

良知不在の政策は、成功することも、人々を幸せにすることもできないことは今後の歴史が証明してくれるでしょう。





